

9月1日 長野県内にて堅果類の結実豊凶調査講習会を実施

【技術普及課】

9月1日（火）、南信署管内の東俣国有林において、堅果類の結実豊凶調査講習会（長野県会場）を開催しました。



8月24日（月）に岐阜県内で実施した講習会に続く2回目の開催で、長野県内の職員を中心に約40名のほか、長野県職員の方に参加いただき、信州大学教育学部准教授の水谷先生にミズナラ及びブナを見ながら、評価基準の判定についてご指導いただきました。

※岐阜県会場の様子



上記の写真は、鏡で光を当てながら調査の重要ポイントを解説していただいている様子です。長野県会場でも水谷先生から判定のポイントを教えてもらい、より短時間で効率的に判定することができるようになりました。

左下の写真に写っている赤枠は、観察する枝先1か所50cm×20cmの目安です。50cmは自分の腕の肘から指先までの長さ程度として観察すると先生に教えていただきましたが、遠方から見ると意外と小さいということが分かりました。



帰り道、林道上に多くのドングリを付けたミズナラが落ちていました。これはハイイロチョッキリなどの虫が、ドングリに穴を開けて産卵して枝を落としたものです。持ち帰ったドングリから白いイモムシが出てくるのを見たことがあると思いますが、それはハイイロチョッキリの幼虫かもしれません。